

教室(診療科)紹介(153)

大橋病院循環器内科教室紹介

大橋病院循環器内科

教授：原 英彦
 准教授：飯島雷輔
 講師：中村啓二郎
 講師：池田長生
 医局長：林 典行

大橋病院循環器内科の歴史

昭和49年、大橋病院循環器内科の前身である内科学第三講座が誕生し、初代主任教授には当時の大橋病院第一内科教授の関清先生が就任されました。その後、矢吹壮先生、町井潔先生、山口徹先生、平井寛則先生、杉薫先生に第三内科教授が引き継がれ、平成15年に診療科再編成が行われ

て内科学第三講座は循環器内科・消化器内科・腎臓内科に分かれることになり、初代の大橋病院循環器内科学講座教授に杉薫先生が就任されました。その後、中村正人先生、諸井雅男先生に引き継がれ、令和6年度より原英彦が循環器内科教授に就任し兼循環器内科診療部長となっています。

過去10年間の歩み

10年前の2015年は杉薫教授と中村正人教授が循環器内科を指揮され、不整脈、心血管インターベンション領域の双方において国内中心施設の一つとして活躍しておりました。また、2018年には新病院が開院し、各分野のエキスパートが揃っている大橋病院循環器内科学講座の中では、虚血性心疾患の診断・治療器具のさらなる進化がみられ、心房細動をはじめとする不整脈治療も随分と増えてきました。また、いままでにはなかった構造的な疾患や肺高血圧といった分野の成長も著しく、それと共に心エコー図やCTなどの進歩が有り画像診断学の重要性も増してきました。

教育・研究活動の充実

大学病院としての使命の一つは、次世代の医療従事者の育成と、循環器領域における研究の推進ですが、大橋病院循環器内科では、最新の知識と技術を備えた専門医を育成するための教育・指導を行いつつ、臨床研究活動を推進しています。多施設臨床試験や治験を通じて新たな治療法や診断法の開発に寄与し、循環器医療の発展に貢献していま



循環器内科(大橋)医局員の集合写真



毎年恒例の循環器合宿

す。国内の学会のみならず、海外の学会参加を奨励し、且つ、海外留学の機会があれば随時経験して頂き、新しい風を医局に吹いてもらっています。2025年3月の段階では2名海外（米国、オーストラリア）におり、各々の分野で研鑽を積んでおります。

最後に

東邦大学医療センター大橋病院循環器内科は、これからの循環器医療のニーズに応えるため、技術の向上、個別化

医療の推進、地域連携、教育・研究の充実を図りながら、患者中心の高品質な医療を提供するように尽力して参りたいと考えております。また、大学病院でなければ出来ないアンメットニーズに応える治療にも従事していきたいと考えております。そして、地域社会における循環器医療の中心的存在としての役割も一層強化していこうと考えております。

（原 英彦）

DOI : 10.14994/tohoigaku.2024-040